



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



音楽と料理の共演



農作業体験



とめだゆきひろ
留田幸大さん(35歳) 気比

**おいしい料理に心地よい音楽！
新たな形で野菜の魅力を伝えたい！**

「新しい形を取り入れたい」と、野菜づくりに面白さをプラスする元気な男性を紹介します。

「自らが栽培した野菜を食べてもらい、おいしいかった」と言ってもらうには、野菜に何かをプラスして、楽しみや喜びを提供したいと常に考えています。『人が笑顔になる』がキーワードです」と話すのは、気比で野菜作りをしている留田幸大さん。

単に野菜を作って売るだけでなく、野菜の魅力をどう伝えるか。イチゴ狩りやイモ掘りなども含め、面白いことを求めて試行錯誤の連続です。

**人を笑顔にするもの…
野菜を軸にした楽しい企画を！**

実家が農業をしていたわけではなく、いろいろな職に就いていた留田さん。農業のイメージを「大変な面はあるが、こうだ！と考えたことはない」と言い、「自分なりに、新しい形で野菜を活用できれば、という思いです」と語ります。

野菜作りに取り組みきっかけは、地に足を付けた仕事をしなかった、周囲の畑で耕作する方が減ってきていたので、耕作されない畑を活用できないかと考えていた、などがあるとのこと。

その後、留田さんの言う

『人が笑顔になる』を形にしたのが、音楽と料理(自家栽培した野菜を使用)とを絡めたイベント「音食おんしょく」です。自身が名付けたこのイベントは、平成25年には、毎月1回、取引先のレストランや自らの畑で開催されたとか。さぞかし思い通りに事が運んでいるのかと思いきや、本人は「こんなことがしたいな、と思いつくばかりで、ポツになった企画も多い。誰かに背を押してもらわないと…」と苦笑い。

一方で、「自分一人ではできないこと。周囲の方々の理解と協力があったこそ。ありがたいです」と賛同者に感謝しています。

自分ブランドを確立したい

野菜をスーパーに卸すでも、大量生産するでもない。栽培中に病気になるりそうだったり、成育が遅かったりすれば、農薬や化学肥料も使う。留田さんは「他と差別するため、スーパーなどであまり見ない品種を栽培し、レストランなどで使ってもらっています。将来、自家採種しているものを自分ブランドにできればこの上ないです」と話します。

多彩な趣味も器用に！

ミュージカルやアカペラ、音楽バンドなどの活動を続けている留田さん。野菜の栽培も収穫も一段落した今の時期は、神鍋高原でスキーのインストラクターをやっています。「万場ゲレンデの関係者と顔見知りになり、今冬、やってみないか、とのこと…。教えますよ、初心者大歓迎(笑)」。

多彩な趣味を称賛すると、「どれもが中途半端になりかねません。どれか一つを極めた方が良いでしょう」との返答。

飽くなき追求心

留田さんは「今年は、地元気比を野菜で盛り上げたいです」と語ります。他にも「栽培した野菜を宅配セットで買えるようにしたい」「取引先のレストランや、いろいろな方とタッグを組んで共同開発したオリジナル商品を作りたい」など、追求心は旺盛。「レストランの料理に、自分の名前が入ったメニューを開発できれば」と密かな期待も。

「今後も、野菜を使っているいろいろなことを創造する『野菜アーティスト』でありたい」と自らを奮い立たせています。

ま ち の 話 題



▲集中して書初めをする6年生児童ら

MANBAスノーフェスティバル
ぜんざいとん汁で
心も体もあったまろう

1月5日、万場ゲレンデ(日高町万場で、MANBAスノーフェスティバルが開催されました。神鍋高原では、年末に降り積もった雪が山を白く染めており、スキーやスノーボードを楽しむに、市内外からの車が続々とゲレンデを目指していました。万場では、リフト券売り場前に設置されたテントに、ぜんざいとん汁が用意され、ゲレンデ入りするスキーヤーなどに振る舞われました。

大阪から家族で来た男性は「ぜんざいで体も温まった。子どもと存分に遊んで帰ります」と、笑顔で話していました。



▲寒いゲレンデで食べるぜんざい・とん汁は最高!

合橋小学校「平成25年度書初め大会」
心を落ち着かせて、集中して、
気持ちを含めて、今日一番の字で

1月8日、合橋小学校で、今年最初の校行事「書初め大会」が開催されました。冒頭、校長先生が書初めの始まりや心構えを話しました。全校児童83人は、皆、真剣な表情で半紙や用紙に向き合い、自分で決めた思いのある字を一生懸命書いていました。

筆で『文武両道』と書いた6年生の二位斗馬さんは、字を決めた理由を「スポーツは得意だけど、勉強は苦手なので、両方できるようにするため」と話していました。

児童らが清書した書初めは、書初め展に掲示し、保護者などに披露します。

笑顔の輪

健康で、長寿に

竹野太極拳クラブ(竹野)

竹野太極拳クラブは、平成25年7月に設立し、主に月曜日の午後と、木曜日の夜間に、竹野地区公民館多目的ホールで活動しています。

会員は40〜60代の男女13人で、講師の指導の下、「いつまでも自分のことは自分でやる体を作る。体と心を健康に」を目指して取り組んでいます。



▲1時間30分、じっくり体を動かす会員たち、汗を流す

声が上がると、健康づくりと受講生同士の交流を深めることを目的に、太極拳クラブを立ち上げるようになりました。会員は初めて太極拳に触れる方ばかりですが、「普段使わない筋肉を使うので面白い」「年代を越えた交流ができる」と活動の面白さを話します。

会長の青山治重さんは「太極拳で体を動かしていると、心も体もほぐされる。気持ちが前向きになれ、他のことにも頑張ろうという意欲が出てくる」と話します。

青山さんは「肩肘張らずに、5年、10年と続けていければいい。また、いずれは太極拳が竹野地域全体に広がっていく」と抱負を話します。見学・入会希望は青山さんまで。☎47-121123

設立のきっかけは、平成25年4〜6月に開催された公民館健康講座。ここで健康体操や太極拳を行っていました。講座終了後、受講生から「3カ月で終わるのはもったいない。ぜひ、続けたい」という